Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Prognostic impact of disseminated intravascular coagulation score in acute heart failure patients referred to a cardiac intensive care unit: a retrospective cohort study

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 猪谷, 亮介 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032095

主 論 文 の 要 約

Prognostic impact of disseminated intravascular coagulation score in acute heart failure patients referred to a cardiac intensive care unit: a retrospective cohort study

（CCU に入院した急性心不全患者における DIC score の予後への影響：後ろ向きコホート研究）

東京女子医科大学循環器内科学教室
（指導：萩原　誠久教授）㊞
猪谷　亮介

Heart and Vessels 第 32 巻 第 7 号 872 頁～879 頁（2017 年 7 月発行）に掲載

【目　的】

急性心不全入院患者の凝固異常を、日本救急医学会（JAMM）急性期 DIC 診断基準により点数化した DIC score を用いて評価した。また DIC score と予後の関係について検討した。

【対象および方法】

東京女子医科大学病院 CCU において、2007 年から 2012 年までの間に急性心不全の診断で入院した患者（367 人）を対象とした。CCU 入院時に DIC score を算出することが可能であった 160 人を後ろ向きに検討した。

【結　果】

急性心不全入院患者の DIC score は 0 点から 6 点まで分布し、DIC score 1 点がもっとも多かった。DIC の診断基準を満たす DIC score 4 点以上の患者は 8 人で、全体の 5.0%であった。DIC score 2 点以上の群（34 人）を DIC score 高値群として、DIC score 低値群との 2 群に分けた。背景として DIC score 高値群では高齢者が多く、また虚血性心疾患を有し、腎機能障害や貧血を認めることが多かった。心房細動の罹患率は両群間で有意差はなかった。入院前の投薬

内容として、DIC score 高値群では硝酸薬の投与が多かったが、ワルファリンの使用に両群間で有意差はなかった。両群間で入院後の総死亡を比較すると、DIC score 高値群は入院後の生命予後が不良であった（総死亡率 55.9%対 27.8%；観察期間中央値 460 日；ログランク P<0.001)。入院時の年齢、性別、虚血性心疾患の既往、収縮期血圧、BNP、血清ナトリウム濃度、血清クレアチニン、BUN、ヘモグロビン濃度、CRP、入院前の治療内容（ワルファリン、硝酸剤)、入院中の治療内容（静注利尿薬、血液透析、IABP）で多変量解析を行った結果、DIC score 高値は入院後の総死亡（ハザード比 2.13；P=0.016）および総死亡と心不全による再入院の複合エンドポイント（ハザード比 1.93；P=0.017）の独立した規定因子であった。

【考　察】

心不全患者では血栓形成が促進され、様々な凝固異常をきたす。急性心不全における凝固異常をきたす原因として、心機能低下および心拡大、心腔内や中心静脈圧の上昇、炎症、調律異常などがあげられる。したがって，急性心不全患者で凝固異常を有する症例は、上記の凝固異常をきたす因子を多く有し、心不全がより重篤な病態に至っている可能性が考えられる。心不全としての病態の悪化が凝固異常を惹起し、凝固異常の程度が DIC score に反映され、結果として DIC score 高値であることが、急性心不全入院患者の予後規定因子となりうることが示唆された。

【結　論】

DIC score は急性心不全入院患者の独立した予後規定因子であった。入院時の DIC score を算出することが、急性心不全患者のリスクの層別化に有用である可能性がある。